

事務事業	231301 敬老事業	実施計画事業	施策体系	231310 高齢者の生きがい活動の充実	
区分	必要性	普通	効率性	高い	
	方向性（第一次）	改善・効率化	改善、効率化の内容	改良戦略	方向性（第二次）
対象	敬老行事（75歳以上） 敬老祝品（88歳、99歳）				
事務事業目的	高齢者への敬老の意を表するとともに祝福することを目的として実施します。				
事務事業内容	各地域で開催される敬老行事の運営を支援する。また、88歳及び99歳を迎えた高齢者へ敬老祝品を支給する。				
実施形態	一部委託				
成果指標	敬老行事出席者数等 令和元年度実績： 10,076人				
活動指標	（活動指標1）敬老行事実施団体数 （活動指標2）敬老祝品配付者数 令和元年度実績： 敬老行事実施団体数125団体、敬老祝品配付者数637人				

事業コスト計算

事務事業費予算額	21,760,000 円	R1 事務分担表による「事務に係る人数」	0.39 人
事務事業費決算額	21,709,885 円	R2 事務分担表による「事務に係る人数」	0.40 人
予定値		確定値	
直接事業費	21,760,000 円	直接事業費	21,709,885 円
人件費	3,214,538 円	人件費	3,234,562 円
総額	24,974,538 円	総額	24,944,447 円

見直し実績	令和元年度をもって敬老祝品の支給を廃止するとともに、敬老行事の見直しを図るため、近隣市の実施状況を確認した。		
事業評価	内部要因 外部要因	（ニーズ）地域の高齢者の率が増加している。 （強み）高齢者を支援する市民団体や高齢者同士のサークルなどの組織が充実している。	
	必要性	敬老事業は高齢者の長寿を祝う事業であり、継続する必要性がある。	
	効率性	敬老会等の敬老行事は社会福祉協議会に委託しているが、実施主体が社会福祉協議会の支部から自治会に移行していることから、効率的ではない。	
	方向性	高齢者数の増加や敬老行事の実施主体が自治会に移行している現状を踏まえ、敬老行事の在り方を見直していく。	

事務事業	231306	生きがいづくり事業		
事業区分	事業区分	実施計画事業	施策体系	231320 高齢者自らで地域社会を担うための支援
区分	必要性	高い	効率性	高い
	方向性（第一次）	改善・効率化	改善、効率化の内容	強化戦略
対象	高齢者			

事務事業目的	高齢者の持つ知識や経験を社会の中で活かしていくための各種事業を実施するとともに、地域社会に貢献することを目的としている老人クラブ、シルバー人材センターに対し、支援を図ります。
事務事業内容	青空サロンを普及するとともに、老人クラブ、シルバー人材センターに対して支援等を行います。
実施形態	一部委託・補助
成果指標	各種事業参加者数 令和元年度実績： 9,621人
活動指標	（活動指標1）青空サロン実施回数 （活動指標2）老人クラブ数 （活動指標3）シルバー人材センター会員数 令和元年度実績： 青空サロン実施回数207回 老人クラブ数40クラブ シルバー人材センター会員数1,177人

事業コスト計算

事務事業費予算額	16,003,000 円	R1 事務分担表による「事務に係る人数」	0.53 人
事務事業費決算額	15,674,624 円	R2 事務分担表による「事務に係る人数」	0.55 人
予定値		確定値	
直接事業費	16,003,000 円	直接事業費	15,674,624 円
人件費	4,368,474 円	人件費	4,447,522 円
総額	20,371,474 円	総額	20,122,146 円

見直し実績	委託事業の見直しを図り、公民館等と重複する事業の実施を一部取り止めた。	
事業評価	内部要因 外部要因	（ニーズ）ライフスタイルや価値観の多様化により、地域活動などに参加しない高齢者も多い。（強み）広報紙やホームページ、Facebook、TwitterなどSNSを効果的に活用した情報提供ができる仕組みが整っている。
	必要性	高齢者人口が増加している中、高齢者の生きがいづくりを推進する事業の必要性は高い。
	効率性	高齢者団体と連携を図りながら、効率的に事業を実施している。
	方向性	高齢者団体等との連携を強化し、事業の拡充を図っていく。